

第 24 回生命科学研究所シンポジウム開催報告

高次生命科学専攻 生体システム学分野
木村 郁夫

2023 年 6 月 22 日に開催されました第 24 回生命科学研究所シンポジウムについて、世話人を務めましたのでご報告致します。

新型コロナウイルス感染症が今年 5 月から 5 類感染症へ移行したことに伴い、今年はオンライン講演なしの 3 年ぶりとなる、芝蘭会館・稲盛ホールでの現地開催にて行いました。

従来、2 日間で行っていたシンポジウムを 1 日に纏め、参加者が過密状態になることを避けるため、事前参加登録を 270 名に制限して行いましたが、メ切 1 週間前の時点で定員に達し、申し込みを停止する大盛況となりました。当日においても、午前の 1 番目のセッションから多くの参加者でホールが埋まり、シンポジウム終了時まで非常に活気あるシンポジウムを開催することができました。ご参加叶わなかった方々には申し訳ございませんでした。当日における稲盛ホールでの参加者総数は延べ 260 名でした。

シンポジウムでは、生命科学研究所に所属する計 23 名の教員（協講座を含む）にご講演頂きました。統合生命科学専攻からは研究室を主宰する教授に、一方、高次生命科学専攻からは教授以外の先生方に、多様な学術的背景に基づいた未発表データも含む最新の研究成果を発表して頂きました。プログラムは 3~4 名ずつから構成される 6 セッションに区分し、本学の国際化の流れに沿った取り組みとして、午後の最初のセッションは英語で行いました。限られた発表時間での講演となりましたが、全ての発表で非常に活発で白熱したディスカッションが展開され、ご講演下さった先生方、および各セッションの進行を円滑に進めて下さった座長の先生方に御礼申し上げます。

情報交換会も 3 年ぶりに現地開催と致しました。こちらも会場が過密状態にならないよう、例年行っていた山内ホールから京大時計台記念館 2 階国際交流ホールに変更し、実施致しました。情報交換会においても、160 名を超える方々の事前参加登録があり、当日はシンポジウム内での質疑応答に引き続き積極的なディスカッションや、様々な情報を交換する場として学生・教員共に楽しんで頂きました。会の中頃には、5 月に行った生命科学研究所主催のソフトボール大会の表彰式も行い、3 年ぶりの対面での開催は、学生と教員の垣根を超えた、また普段会う機会のない学生同士・教員同士の非常に良い交流の場となり、時間の許す限り大いに盛り上がりました。

今回は、3 年ぶりの対面での開催となったこと、またシンポジウムを 1 日に短縮して開催することへの変更などから、事前準備や当日進行等、多大なる尽力を下さりました事務室の皆様にご報告申し上げます。また、そのような状況下で大盛況の中、無事にシンポジウムを終えることが出来ましたことを感謝するとともに、開催をご支援下さった研究科総務掛と教職員の皆様、また、機器接続や照明等の事前テストや開催当日の運営に主体的に取り組んでくれた研究室のメンバーに、心より感謝の意を表します。

